

日の入り

谷内柊太

水平線に太陽が沈む

いつもの見慣れた光景だったのに

今日は地球最後の日　もう夜明けはない
どこにも逃げ場はないのに飛行機雲

一人の男が死んだカフェを通りかかって

喘息持ちのあの子はきつと誰かの腕の中だ

潮風が運んできた幾重にも重なるあの日
諦めて煙草に火をつける

この砂は夕日の熱にまだ輝く

夜の語らい　休講の昼下がり

電話越しの詩　魂が溶け込んだ電子
もつと輝け、この夜を裂け

いつもの散歩道　街灯に照らされて

錆びついた「また来てね」の看板

意味が崩壊しかかったこの惑星で
月が最後の仕事に取り掛かる